

しゃきょう

令和5年11月1日発行 第471号

発行 八丈町社会福祉協議会
八丈町三根2番地
TEL 04996-2-2609
FAX 04996-2-4655
心配ごと相談 TEL 2-5000
Eメール info@8jo-syakyo.or.jp
HP https://8jo-syakyo.or.jp/



社協では令和2年度～6年度に掛けて、第3次みつわ計画に基づき事業を行っていきます。

福祉バザー開催します！

日時：11月19日(日) 9:00～11:00

場所：三根小学校体育館

駐車場は①～③をご利用ください。

①富士グラウンド ②社協第2事務所

③旧亀屋跡地



駐車場や学校周辺ではスタッフの指示に従い、駐車・通行をしてください。

バザー売り尽くしセール

日時：11月29日(水)～30日(木) 9:00～16:30

場所：八丈町保健福祉センター 待合室

皆様お誘い合わせの上ご来場ください。



多くの皆様にご来場いただいている「福祉バザー」を4年ぶりに上記の日程・会場で開催いたします。バザーの収益は、社協で行っている「移送サービス」や「給食サービス」等の地域福祉事業の財源として使わせていただきます。

福祉バザーは多くのボランティアの皆様のご協力により実施しております。地域の皆様、今年度もご協力よろしくお願いします。また、準備等のボランティアを募集していますので下記連絡先にご連絡ください。

しゃきょう10月号でもお伝えしましたが、今年度は大型家具の販売は行いません。また、例年より販売物品がない事が予想されますので、あらかじめご了承ください。

4年ぶりの開催のため、ご迷惑をおかけする事があるかもしれません、スタッフ一同皆様のお越しをお待ちしております。

【お問い合わせ】 TEL 2-2609 担当 菊池孔介

※買い物袋をご持参くださいますようお願いいたします。

百歳お祝いご報告

9月27日に奥山エミ子さんが百歳の誕生日を迎えるました。お誕生日に養和会へ訪問し、お祝いを行いました。

大黒頭巾を被り、ちゃんとこを着てお待ちいただいていたエミ子さんに、会長から賞状とお祝い金をお渡しました。お祝いを見てエミ子さんは「ありがとうございます！」と手を振ってくださいました。



エミ子さんは長く八丈支庁でお仕事をなさいっていました。そうです。女性が仕事をして生きていくことができる時代になりましたが、それは最近のこと。結婚して家庭に入ることが一般的であつた時代に女性が仕事を続けるということはとても大変だったのではないかと思います。

エミ子さんは帰る前にも「ありがとうございます」と手を振つてくださりました。その場の雰囲気をよくすることができるお人柄が感じられ、声をかけてくださるお姿にとても魅力を感じました。ぜひこれからもお元気でお過ごしください。百歳おめでとうございます。

(沖山紘子)

登録ヘルパー・入浴看護師募集

社協では介護保険事業でホームヘルプサービスと入浴サービスを実施していますが、現在登録スタッフが不足しています。

ホームヘルプサービスでは、朝・昼・夕の食事や排泄介助で多くの利用者の中、希望時間が重なるため、人手が足りず対応出来なくなっています。

登録ヘルパーは介護福祉士・介護初任者研修終了・ヘルパー2級などの資格が必須となるため、島内の多くの事業所で不足しています。上記の資格をお持ちの方は、短時間でも結構ですので、登録ヘルパーとして是非ご登録をお願いします。



また、訪問入浴サービスでは看護師を募集しています。看護師は入浴後の体調の確認や着替え・ベッドメイク・入浴介助などを担当します。看護師も資格が必須となるため、不足しております。

社協では、これまでご家族の転勤等によって島に来られた方にヘルパー・入浴サービスをご協力いただいてきました。介護・医療系の資格をお持ちの皆様、是非島の福祉のためにお力を貸しください。よろしくお願いします。



石井 熱 殿(千葉県柏市)

100,000円

亡母(とみ殿)の
忌明けに際して



ヘルパー・入浴看護師募集概要

【登録ヘルパー】

■賃金：時給1200円+処遇改善手当+交通費

■資格：介護福祉士・介護初任者研修終了等ヘルパーとして従事可能な資格

【入浴看護師】

■賃金：1件2500円+処遇改善手当

■資格：看護師等、入浴サービス看護師として従事可能な資格

■お問い合わせ

2-2609 (担当:菊池)

ご寄附いただきまして、誠にありがとうございます。皆様からいただきましたご寄附は、高齢者や障がい者の方々の在宅福祉サービスなど、島の福祉のために大切に使わせていただきます。

寄附者一覧

ご寄附いただきまして、誠にありがとうございます。皆様からいただきましたご寄附は、高齢者や障がい者の方々の在宅福祉サービスなど、島の福祉のために大切に使わせていただきます。

福祉のお仕事、ここが好き②

介護や福祉の仕事は「大変だね」と言わることが多いですが、良い部分も沢山あります。このコーナーでは日々業務をしていて、楽しい経験や良いと感じる点などを不定期連載の形で皆さんにお伝えします。

第2回は、社協事務局長の佐々木攻が「社協の魅力」「福祉の魅力」について、お伝えさせていただきます。

日々の仕事に追われ、普段はこのような内容について考えている余裕が無い状況ですが、この記事を書くこととなり、業務について振り返る良い機会となりました。私自身、社協に入り、色々な事業を担当してきましたが、その中でも魅力だと考えるのがスクール出前です。

スクール出前の魅力とは

平成26年度からスクール出前の担当となり、現在も継続的に以下の内容を行っています。心を育てる福祉の講話、視覚・聴覚・肢体に障がいのある方の理解を深める等の体験講座を希望する学校に担当として、又は講師を依頼してその講師と共に授業の時間を使い実施しています。



スクール出前では体験活動として主に「アイマスクでの視覚障がいに関する体験」「体重り・見えにくい眼鏡・聞こえづらいヘッドホンをつけての高齢者疑似体験」「点字や手話の体験」などを行っています。

(佐々木攻)

内容によっては視覚や聴覚に障がいのある方に講師をお願いし、子ども達と一緒に体験活動をしたり講話を行っていただきます。

スクール出前の依頼は主に小中学校からですが、学校以外でも依頼があり実施したことがありました。



魅力を感じるところは、実施した内容について理解していただき、子どもたちや地域の方々の知識習得の一助となつたときです。実施後には感謝の言葉もかけて貰うと、自己満足となるかもしれないが、人の役に立ち、少しでも社会に貢献できたと実感します。

このように学校や地域の方々の知識を深める一翼を担え、また、小学校・中学校で継続的に実施したときに子どもたちの成長過程を見ることができることはスクール出前としての魅力的な部分です。



この記事を書いたことにより、今後は皆様により一層「社協の魅力」や「福祉の魅力」を伝えることができたらと強く感じ、日々努力して参ります。

ご自宅サロンクイズ

サロンでは毎回クイズ等の脳トレーニングを行っています。今月のサロンクイズは「難読漢字動物クイズ」です。①～④の漢字は何と読むでしょうか？答えは4面のボランティアコーナーをご覧ください。

- ① 驯鹿 ③ 畜
- ② 亜米利加豹 ④ 鹳

11月のサロン日程

11月のサロンは、左記の日程で実施する予定です。過ごしやすい秋の季節、みんなと交流しながら楽しいひと時を過ごしましょう。

・坂上地域 11月24日（金）
中之郷公民館

・坂下地域 11月27日（月）
社協第2事務所

【お問い合わせ】
TEL: 02-2609
担当 中島

ボランティアセンターだよ!



動を行う組織です。

被災された方のニーズ
にあわせて、ボランティア

平成25年10月16日、台風26号による伊豆大島の土石流災害が発生しました。

今回は災害ボランティアセンター（以下、災害ボラセン）について紹介します。皆さんも感じていると思いますが、世界各国で自然災害が増加しています。内閣府のホームページによれば、毎年世界では、約1億6千万人が被災し、約10万人の命が奪われているそうです。（1970年～2008年の平均）また最近の10年間をみると、1970年代に比べて、発生件数、被災者数ともに約3倍に増加しています。

日本でも台風・豪雨・洪水・地震・津波・噴火など様々な自然災害が毎年のように発生しています。



「災害ボランティアセンター」は
どんな所？

「災害ボランティアセンター」は

どこが立ち上げるの？

また、ボランティアの受け入れに関する被災地内外に情報発信し、活動を希望するボランティアに周知することも重要な役割です。



平成26年1月31日までに7000名を超えるボランティアが活動しました。10月28日には、「災害ボランティア活動支援に関する協定」に基づき、東京都と東京ボランティア・市民活動センターが協働で、東京都災害ボランティアセンターを開設。大島社協や都内外のさまざまな市民活動団体とともに、大島町の被災された方々の支援を行いました。

平成26年2月1日、仮設住宅への入居開始など復興に向けて新たな局面を迎えたことを機に、大島社会福祉協議会災害ボランティアセンターは「大島社会福祉協議会ボランティアセンター」と名称を改め、被災された方々の生活復興の支援活動を本格化させることになりました。（東京ボランティア・市民活動センターHPより）

このように災害ボラセンは、災害発生直後から一定期間にボランティア等の支援を受け入れることを主な目的とし、その後の地元住民が中心となって復興に力を入れる段階になると発展的にその役割を終えています。

災害ボラセンは、被災者の「一ース（「片付けを手伝ってほしい」などの要望）の把握や災害ボランティアの受け入れ・調整、ボランティア関連情報の提供、行政・地域と連携した支援活

大島の事例

（菊池孔介）